

女子大学生における歯科保健学習経験と 歯科保健行動に関する調査研究

大西真由実・山本 浩子*¹・鈴木 千春*²・福澤 歌織*³・渡邊 貢次*⁴

Relationship on Learning Experiences of Oral Health Education in Schools and Oral Health Behaviors of Female University Students

Mayumi ONISHI・Hiroko YAMAMOTO*¹・Chiharu SUZUKI*²
Kaori FUKUZAWA*³・Koji WATANABE*⁴

A questionnaire survey on the relationship between learning experiences of oral health education in the time of elementary, junior and senior high schools and present oral health behaviors of female university students were investigated.

The following results were obtained.

There were so few opportunities of oral health education in senior high school.

Many university students did not remember about learning contents of oral health education in schools.

University students who spent good life styles had relations with consciousness and behaviors of early oral care.

A part of learning experiences of oral health education in the time of elementary school of low grade related on present behaviors of early oral care and periodical dental check in university students. However, it was found that learning experiences in junior and senior high schools did not mostly promote strong motivation of oral health behaviors of university students.

The substantiality of prior and posterior guidance was required in the case of periodical dental check in schools.

鈴鹿国際大学短期大学部・*¹常滑市小鈴谷小学校・*²愛知県立岡崎工業高等学校

*³愛知学院大学歯学部・*⁴愛知教育大学教育学部

1. はじめに

厚生労働省が提案する「健康日本21」では歯の健康に関して、幼児期・学齢期のう蝕予防、成人期の歯周病予防を推進し、歯の喪失防止につとめ、8020の実現をめざすことを目標としている。そして、その実現のための対策として、歯・口腔の個人による自己管理と専門家による定期管理の重要性を説いている¹⁾。これには当然、成人になっても各個人の管理能力が育成されていないと行動としての実践が伴わない。この自己管理能力の育成のために、学校歯科保健学習・保健指導が展開される。

すなわち、歯科保健学習・保健指導は児童生徒の歯科保健の意識向上や実践行動の促進はもとより、当然ながら、成人・高齢者となった後も自らの口腔衛生管理の継続的増進をねらいとしているものである。したがって、それまでに受けた学校歯科保健の学習経験およびその捉え方がその後の健康行動に影響しているといえる。

これまで渡邊ら^{2) - 5)}は、高校生や大学生の歯科保健行動について、年少期および現在の生活習慣や栄養摂取等、現う歯数との関連から報告してきた。それでは、彼らはそれまでに受けた学校歯科保健学習をどのように記憶し、理解し、自らの歯・口腔管理、歯科保健行動に実際に反映させているであろうか。

それまでの学習経験と現在の大学生の歯科保健行動と結びつけての評価はあまり行われていない。そこで今回、筆者らは女子大学生を対象として、小学生時から高校生時までの歯科保健学習経験、学習内容および現在の生活健康行動と歯科保健行動との関連を中心に質問紙法により調査し、検討した。

2. 調査方法

2・1 対象者

愛知、三重、岐阜県内の6大学・短期大学の養護教育科、生活科学関連教室等いずれも養護教諭教員免許を取得できるコースに在籍する女子大学生1, 2年生、合計773名を調査対象とした。このうち記載不備を除いて、768名が有効回答者数(平均年齢 19.0 ± 9.0 歳)であった。

2002年1月～4月に、授業時に担当教官もしくは調査者が質問紙調査票を配布し、その場で記入してもらい、回収した。

2・2 内容

調査内容は、先行研究^{2), 4)}をもとに改変したもので、選択肢法によるものである。現在の生活習慣や健康意識・行動、小学校低学年時、高学年時、中学生時、高校生時での歯科保健の学習経験の内容や指導者、指導方法、事前・事後指導内容などについての質問で構成されている(資料1)。

2・3 分析

学習経験、生活行動と現在の歯科保健行動の関連を分析した。統計的処理にはSPSS (10.0J)を用い、有意差の判定には χ^2 検定により、5%および1%水準で行った。

3. 結 果

3・1 学習経験

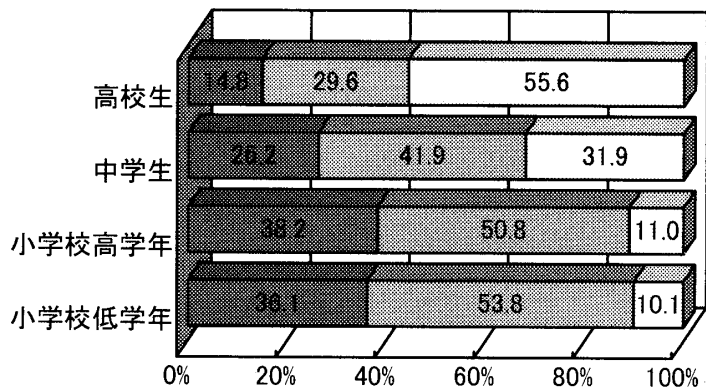
学校歯科保健学習経験のうち、『むし歯や歯周疾患の原因』、『ブラッシング』、『食生活と歯の健康』についてとりあげた。

それぞれの学習経験は、図1に示すように、小学校低学年・高学年時では85～90%，中学生時では55～70%，高校生時では35～45%が『あり』と回答した。すなわち、高い校種になるほど歯科保健学習の機会が少ないことか確認された。しかし、学習経験があっても、具体的な内容については、『忘れた』とするものも多くみられた。『むし歯や歯周疾患の原因』、『食生活と歯の健康』については、小学生になるほど『忘れた』とする割合が高くなった。また、『食生活と歯の健康』については、どの校種においても経験ありの中の約75%を占めた。

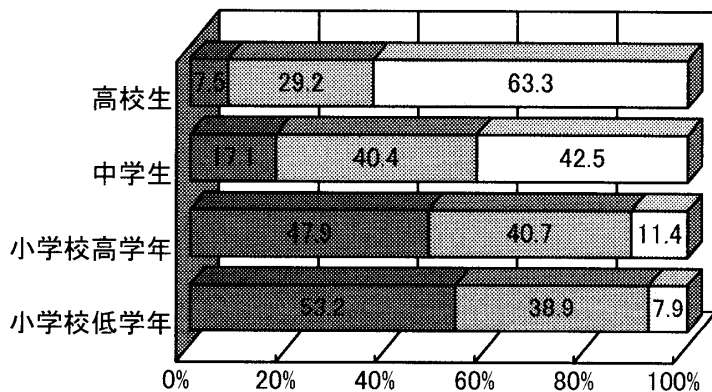
3・2 指導者

学校での歯科保健学習指導者については、図2に示すように、『受けなかった・忘れた』と回答するものが多くみられ、小学生時では低学年時と高学年時で差はなく約42%であり、中学生時

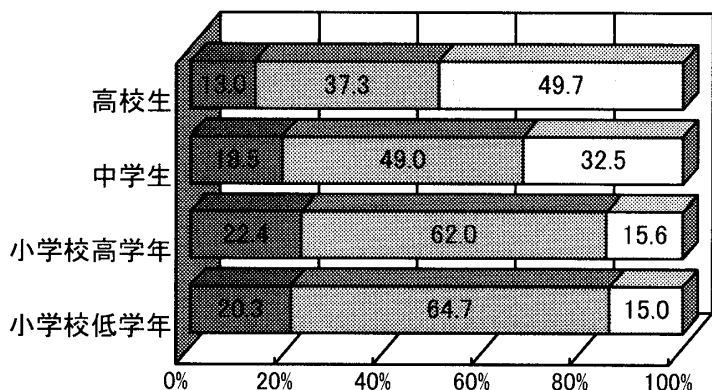
a. 『むし歯・歯周疾患原因』について



b. 『ブラッシング』についての学習経験



c. 『食生活と歯の健康』についての学習経験



学習経験あり 内容記述あり
 学習経験あり 内容忘れ
 学習経験なし

図1 学校歯科保健の学習経験

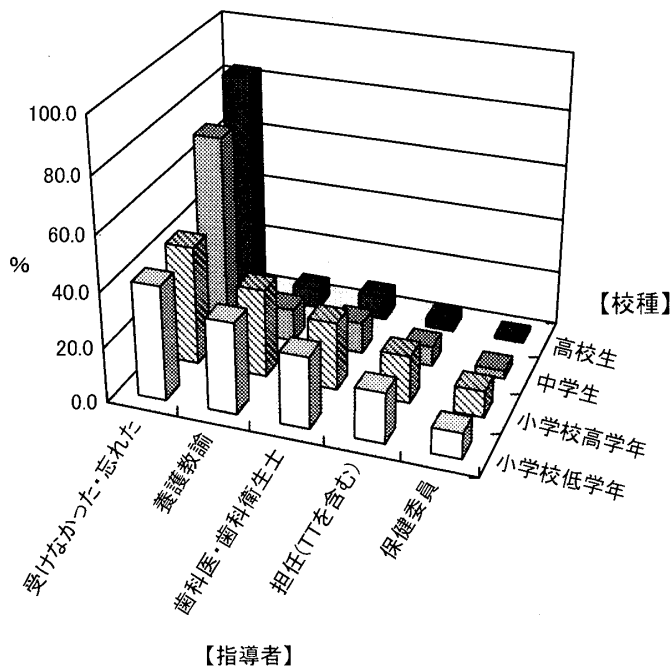


図2 歯科保健指導指導者
(指導者については、複数回答あり)

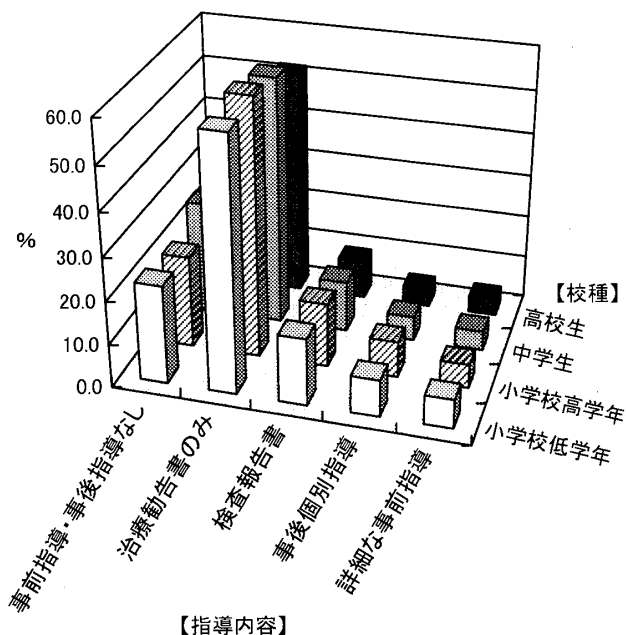


図3 歯科保健指導における事前指導・事後指導内容
(指導内容については、複数回答あり)

では71.6%、高校生時では83.8%とその割合が高かった。指導を受けた回答(複数回答あり)のうち小学生時でみると、指導者を『養護教諭』によるとするのが最も多く約32%、次いで、『担任とのチーム・ティーチング(TT)』約18%であった。中学生時では『養護教諭』によるものが11.9%、高校生時では『歯科医や歯科衛生士』が8.4%が最も多く、他は7%以下であった。

3・3 事前・事後指導

歯科検診にあたっての『事前指導・事後指導』の内容については、図3に示すように、『受けなかった』と回答したものは校種別でみると、小学校低学年時・高学年時では約22%、中学生時では26.3%となり、あまり大きな差はないが、高校生時では34.8%とやや高くなった。事前指導を『受けた』と回答(複数回答あり)したもののうち、その内容については、『治療勧告書をももらったのみ』は小学校低学年時・高学年時・中学生時では約60%、高校生時では52.0%であった。『治療不要でも結果報告書をももらった』は各校種10~15%であり、『事後に個別指導を受けた』、『事前に検査内容や検査目的の指導を受けた』と回答したものは各校種いずれも4~9%であった。

3・4 生活習慣行動・意識と歯科保健行動

大学生としての現在の『健康に気をつける』、『栄養バランスを考える』、『朝食を摂る』、『間食をしない』、『甘味をひかえる』、『8020に自信がある』など

の生活習慣行動・意識と、現在の歯科保健行動の『歯の治療は早めに受けるようにしているか（以下、早期治療）』および『治療以外で、定期的に歯科検診を受けているか（以下、定期検診）』に反映しているかを検討した。

表1に示すように、『早期治療』と生活習慣行動・意識との関連では、『間食をしない』を除いてすべてに有意差 ($p < 0.01$) がみられた。また、『定期検診』と生活習慣行動・意識との関連では、『朝食を摂る』、『8020に自信がある』に有意差 (それぞれ, $p < 0.05, p < 0.01$) がみられた。

3・5 歯科保健学習経験と歯科保健行動

小学生時から高校生時までの3・1に述べた学習経験が、現在の歯科保健行動の『早期治療』および『定期検診』に反映しているかを検討した。

表2に示すように、学習経験と『早期治療』との関連では、小学校低学年時および高校生時の『ブラッシング』学習のみに有意差 ($p < 0.05$) がみられただけで、ほとんど関連がみられなかった。『定期検診』との関連では、小学校低学年時・高学年時の『むし歯や歯周疾患の原因』学習と『食生活と歯の健康』学習 (いずれも, $p < 0.05$) および小学校低学年時の『ブラッシング』学習に有意差 ($p < 0.01$) がみられた。いずれも関連があったのは、小学生時の学習経験だけであった。

4. 考 察

学校健康診断は、健康状態評価による教育活動の展開という意義をもつ⁶⁾。う歯は小学校から高等学校までのすべての校種において児童生徒に対して最も被患率の高い疾病異常であることから、学校歯科保健学習・保健指導は、教育ニーズの高い健康課題である。そこで、学校にあってはいろんな形で歯科保健学習や指導を展開する。しかし、保健学習や保健指導の経験はその後の実践行動に反映されているのであろうか。そこで今回、養護教諭をめざす女子大学生768名を対象として、小学生時から高校生時までの歯科保健学習経験および大学生としての現在

表1 現在の生活行動と歯科保健行動との関連性

生活行動	歯科保健行動	
	歯の治療は早めに受ける	定期的に歯科検診を受ける
・健康に気をつける	**	—
・栄養バランスを考える	**	—
・朝食を摂る	**	*
・間食をしない	—	—
・甘味をひかえる	**	—
・8020に自信がある	**	**

χ^2 検定 - : NS, * : $p < 0.05$, ** : $p < 0.01$

表2 小学生時～高校生時の学習経験と歯科保健行動との関連性

学習内容	歯科保健行動	
	歯の治療は早めに受ける	定期的に歯科検診を受ける
・『むし歯・歯周疾患原因』		
小学校低学年	—	*
小学校高学年	—	*
中学生	—	—
高校生	—	—
・『ブラッシング』		
小学校低学年	*	**
小学校高学年	—	—
中学生	—	—
高校生	*	—
・『食生活と歯の健康』		
小学校低学年	—	*
小学校高学年	—	*
中学生	—	—
高校生	—	—

χ^2 検定 - : NS, * : $p < 0.05$, ** : $p < 0.01$

の生活健康行動と歯科保健行動の関連を中心に質問紙法により調査し、検討した。

『むし歯や歯周疾患の原因』、『ブラッシング』、『食生活と歯の健康』の学習経験ありとした者は、小学校低学年時・高学年時が約90%なのに対して、中学生時は約60%、高校生時は40%であり、中学校、高等学校においては学習経験の機会が少ないのが確認された。このことは予想されたことでもあるが、せっかくの学習の機会があっても、その内容を記憶していない者も多くみられた。これに関連して渡邊ら⁴⁾は、成人に向けての重要な時期である高校生時に歯科保健領域の再教育が重要であることを指摘してきた。中学校、高等学校でみられる今日の授業運営の中では、学校保健や歯科保健の指導時間を十分に確保することはなかなかできていないのが現状であるが、限られた時間にあっても、学校内での効率的な保健指導計画をもとに効果的な印象の強い学習の展開が必要である。

児童生徒において学習経験後の歯科保健行動の継続性につながるものとして、上記の効果的・印象的学習とともに重要な要素として、歯科検診に伴っての事前指導および事後指導の充実があげられる。今回の調査では、指導内容の多くは『治療勧告書をもらったのみ』であったが、例えば、事前指導には、検診目的や内容の意義説明があげられ、事後指導には治療の有無にかかわらず個別的な結果の説明による個別指導の充実などもあげられよう。このためには、当然、学校内組織者による学習だけではなく、学校外の関係者との協力関係が必要不可欠である^{7), 8)}。

さて、今回対象となった大学生でみられた健康意識や行動は、現在の歯科保健行動と関連があるかをみたところ、大学生の生活行動『健康に気をつける』、『栄養バランスを考える』、『朝食を摂る』、『甘味をひかえる』など各項目において良好なものは、歯の早期治療行動にも結びついていた。安藤ら⁹⁾も成人を対象とした調査で、定期歯科健診行動と歯科保健意識の高さの関連を述べている。すなわち、意識の持続は歯科保健に限らず、良好な健康行動として実践化されることが示されたわけであるが、すべての大学生において行動が伴っていたわけではない。

一方、大学生の歯の早期治療行動や定期的な歯科検診行動に関して、それまでの学習経験との関係においては、小学校低学年時における学習経験との間で一部関連がみられたものの、中学生時、高校生時の学習経験とは関連がみられなかった。この結果は、学習経験の内容によっては、必ずしも現在の歯科保健行動の動機づけになっていないということを示している。

このことは高校生時も同様であり、多くの高校生においても健診結果の認識が必ずしも受療行動に結びついていない^{10), 11)}といわれており、結局、歯科保健という意識は、現在の多くの大学生にとっては高校生時、多くの高校生にとっては中学生時あるいはそれ以前のままのレベルにとどまり、積極的な実践行動につながらないことを裏付けている。

逆に言えば、全校種にわたって指導者側の質のよい指導内容、それを支援するための質のよい情報や教材の開発や工夫で裏付けられた学習経験が大切であること。これが自らの歯科保健意識の向上に結びついていき、成人になってからも良好な生活習慣はもとより、定期歯科健診や早期治療など歯科保健行動の実践化、定着化といった歯あるいは口腔の自己管理能力の育成に反映されていくことを意味している。当然、これには養護教諭や担任といった学校側の指導

者、あるいは学内の保健組織の運営だけでは成立しない。歯科医、保護者を含めた学外関係者との連携は重要であり、綿密な連携体制の確立が必要である¹²⁾。

今回は学校歯科保健という領域から検討したが、笹原ら¹³⁾、相澤¹⁴⁾が子どもの歯科保健行動は、母親の歯科保健の意識、情報獲得が影響すると述べているように、実際は、低年齢児からの歯科保健も重要不可欠である。本調査で、歯が80歳でも20本あること(8020)について、自信があると回答した大学生は21.3%であった。この数値を自信をもって高めていくための作業を今後も続けていきたい。

5. 今後の展開

さて、本研究は、ただ単に調査することだけを目的にして終わるのではない。対象となった大学生は卒業後、学校で養護教諭となることをめざすものが多い。そこで、これらの調査結果を、特に養護教諭から教えられていた学習経験がその後の自分の行動に活かされていないということを、大学における教育用教材として提示することにより、自分たちが歯科保健教育をどのようにみてきたかを知ることができる。そして、記憶の曖昧さ、歯科保健行動の未熟さ・定着化の悪さを自覚することができれば、養護教諭として学校歯科保健教育にたずさわるための目的意識が高まることが期待される。

したがって、現在この目的に向かって、

- ・子どもたちの記憶に残る学習内容とは
- ・そのための、学校組織、学校歯科医などとの連携を含めた、効率的な指導方法や印象に残る実践的な教材の開発・工夫するには
- ・歯科保健行動のより一層の実践化・定着化にむけての指導方法とは

などについて討論を深めながら、将来、指導者になるための力量向上をめざすべく、授業を展開中である。

6. まとめ

女子大学生のそれまでの歯科保健学習経験および現在の生活行動・意識と歯科保健行動との関連を検討したところ、以下のことが確認された。なお、歯科保健学習経験は『むし歯や歯周疾患の原因』、『ブラッシング』、『食生活と歯の健康』をとりあげた。

- ・歯疾患率が高くなる校種になるほど、すなわち高校生になるほど歯科保健学習の機会が少ない。
- ・また、学習内容について覚えていない者も多い。特に、『食生活と歯の健康』については学習経験があるものの、覚えていない者が多くみられた。
- ・歯科検診にかかわって、十分な事前・事後指導があるとはいえなかった。
- ・現在の『健康に気をつける』、『栄養バランスを考える』、『朝食を摂る』、『甘味をひかえる』などの生活行動が良好なものは、早期治療行動と関連がみられた。

- ・一方，早期治療，定期検診行動は小学校低学年時の学習経験と一部関連がみられたものの，中学生時，高校生時の学習経験とは関連がみられず，歯科保健行動の強い動機づけになっているとはいえなかった。

謝 辞

本研究の遂行にあたって，調査にご協力いただきました大学・短期大学の教官，学生の皆様に感謝申し上げます。

なお，研究内容の一部は，第49回日本学校保健学会（2002，札幌市），第52回日本口腔衛生学会（2003，北九州市）で発表した。

文 献

- 1) 厚生労働省<健康日本21>ホームページ：
http://www1.mhlw.go.jp/topics/kenko21_11/top.html（2003年10月20日閲覧）
- 2) 渡邊貢次，鈴木千春，鈴木一吉（1999）：女子大学生の歯科保健行動についての意識調査－小学校低学年時～大学生時（現在）の比較，日本教育保健研究会年報，6：29－36
- 3) 渡邊貢次，鈴木千春，鈴木一吉（2000）：男女大学生の小学生時から大学生時（現在時）の生活習慣，栄養摂取および歯科保健行動に関する調査研究，愛知教育大学研究報告，49，79－86
- 4) 鈴木千春，渡邊貢次，町田久子，鈴木一吉（2001）：女子高校生の歯科保健行動に関する調査研究－小学校時と現在時の比較および現う歯数との関連－，保健の科学，43：737－744
- 5) 外山恵子，柴田和子，杉本春美，趙在元，渡邊貢次（2003）：CO（要観察歯）の経年変化に関する研究－中学1年生時から高校3年生時までのCOの追跡調査－，愛知教育大学研究報告，52，53－59
- 6) 佐藤理（2000）：戦後学校健康診断の政策動向，日本教育保健研究会年報，7：45－51
- 7) 水野照久，中垣晴男，鵜飼基（1994）：愛知県内小・中・高等学校における歯の健康診断と事後措置および保健指導に関する質問紙法による調査，学校保健研究，36：238－244
- 8) 土肥陽一，末高武彦（1999）：う蝕発生状況と学校保健活動との関連性に関する調査研究，学校保健研究，41：45－56
- 9) 安藤歩，岸光男，相澤文恵，米満正美（2003）：アンケート調査による定期歯科健診受信者の歯科保健行動の比較，口腔衛生学会雑誌，53：3－7
- 10) 森下真行，徐淑子，原久美子，松本厚枝（2000）：高等学校における学校歯科保健活動に関する研究 第1報 歯科健診結果の認識と受療行動，口腔衛生学会雑誌，50：231－235
- 11) 森下真行，徐淑子，原久美子，松本厚枝（2001）：高等学校における学校歯科保健活動に関する研究 第2報 歯科保健指導が健診結果の認識と受療行動に与える影響，口腔衛生学会雑誌，51：145－149

- 12) 高島智香 (2000) :学校保健における連携および地域保健との連携に関する研究－養護教諭と保健婦・学校三師の調査結果から－, 愛知教育大学養護教育講座研究紀要, 5 : 21-28
- 13) 笹原妃佐子, 河村誠, 宮城昌治, 岩本義史 (1998) :母親の歯科保健行動ならびに口腔内状態と3歳児健康診査受診状態との関連について, 口腔衛生学会雑誌, 45 : 1059-1067
- 14) 相澤文恵 (2002) :母親の歯科保健に対する意識と保健行動の関連性 第2報 3歳児の母親を対象とした研究, 口腔衛生学会雑誌, 52 : 2-11

資料 1

筆者注：ページ数の関係上、回答項目欄が同一のものについては記載を一部省略した。

アンケート調査票（大学生・短大生用）

【記入方法】

- ・ 2の年齢は、数字を記入してください。
- ・ 1と3～24の問いは1つだけ選択し、番号に○をおつけ下さい。
- ・ 25～29の問いは複数回答可です。当てはまるもの全てに○をおつけ下さい。
- ・ 文中の「小学生低学年」とは、永久歯にかわるまでの乳歯期と考えて下さい。

1. 性別。

- ①男 ②女

2. 年齢。

_____ 歳

3. 父親（養育者）は甘いものが好きでしたか。

- ①はい ②ふつう ③いいえ

4. 母親（養育者）は甘いものが好きでしたか。

- ①はい ②ふつう ③いいえ

5. あなたは甘いものを食べないように気をつけていましたか。

小学校低学年の頃 ①はい ②いいえ

小学校高学年の頃 ①はい ②いいえ

中学生の頃 ①はい ②いいえ

高校生の頃 ①はい ②いいえ

大学生・短大生 ①はい ②いいえ

6. あなたは朝食をいつも食べましたか。

* 5. と同じ

7. あなたは間食をよくしましたか。

* 5. と同じ

8. あなたはダイエット（内容・期間とはわず）をしたことがありますか。

* 5. と同じ

9. あなたは現在タバコを吸いますか。

- ①はい ②いいえ

10. あなたは現在お酒をよく飲みますか。

- ①よく飲む ②時々飲む ③全く飲まない

11. 睡眠時間はおよそどれくらいでしたか。

小学校低学年の頃 ①7時間以下 ②7～9時間 ③9時間以上

小学校高学年の頃 ①7時間以下 ②7～9時間 ③9時間以上

中学生の頃 ①7時間以下 ②7～9時間 ③9時間以上

高校生の頃 ①7時間以下 ②7～9時間 ③9時間以上

大学生・短大生 ①7時間以下 ②7～9時間 ③9時間以上

12. あなたは運動をよくしましたか。

小学校低学年の頃 ①はい ②ふつう ③いいえ

小学校高学年の頃 ①はい ②ふつう ③いいえ

中学生の頃 ①はい ②ふつう ③いいえ

高校生の頃 ①はい ②ふつう ③いいえ

大学生・短大生 ①はい ②ふつう ③いいえ

13. あなたは規則正しい排便がありましたか。

* 5. と同じ

14. あなたはストレスが多いほうでしたか。

* 5. と同じ

15. あなたは健康に気をつけていましたか。

* 5. と同じ

16. あなたは歯の治療は早めに受けるようにしていましたか。

* 5. と同じ

17. あなたは異常がないのに歯の治療以外で、定期的に歯科検診を受けていましたか。

* 5. と同じ

18. あなたは学校で、歯磨きの仕方を教わりましたか。

* 5. と同じ

19. あなたは1日何回歯磨きしましたか。

小学校低学年の頃 ①0回 ②1回 ③2回 ④3回 ⑤4回以上

小学校高学年の頃 ①0回 ②1回 ③2回 ④3回 ⑤4回以上

中学生の頃 ①0回 ②1回 ③2回 ④3回 ⑤4回以上

高校生の頃 ①0回 ②1回 ③2回 ④3回 ⑤4回以上

大学生・短大生 ①0回 ②1回 ③2回 ④3回 ⑤4回以上

20. あなたは乳歯に虫歯がありましたか。

- ①はい ②いいえ

21. 歯石をとったことがありましたか。
 小学校低学年の頃 ①あった ②なかった
 小学校高学年の頃 ①あった ②なかった
 中学生の頃 ①あった ②なかった
 高校生の頃 ①あった ②なかった
 大学生・短大生 ①あった ②なかった
22. 食事のときに栄養バランスを考えていますか。
 ①はい ②いいえ
23. あなたは80歳で歯が20本あることに自信がありますか。
 ①はい ②いいえ
24. むし歯や歯周疾患の原因について学習しましたか。(複数回答可)
 小学校低学年の頃 ①学習していない
 ②プリントや教科書などで学習した
 ③写真やVTRなどを利用して学習した
 ④カリオスタットやRDテストなどの実習で学習した
 ⑤忘れた・覚えていない
 小学校高学年の頃 * 小学校低学年の頃と同じ
 中学生の頃 * 小学校低学年の頃と同じ
 高校生の頃 * 小学校低学年の頃と同じ
25. あなたはブラッシングについて学習しましたか。(複数回答可)
 小学校低学年の頃 ①学習していない
 ②プリントや教科書などで学習した
 ③写真やVTRなどを利用して学習した
 ④染め出しなどの実習で学習した
 ⑤忘れた・覚えていない
 小学校高学年の頃 * 小学校低学年の頃と同じ
 中学生の頃 * 小学校低学年の頃と同じ
 高校生の頃 * 小学校低学年の頃と同じ
26. あなたは食生活と歯の健康の関連について学習しましたか。(複数回答可)
 小学校低学年の頃 ①学習していない
 ②プリントや教科書などで学習した
 ③写真やVTRなどを利用して学習した
 ④噛合力テスト、ステファンカーブなどの実習で学習した
 ⑤忘れた・覚えていない
 小学校高学年の頃 * 小学校低学年の頃と同じ
 中学生の頃 * 小学校低学年の頃と同じ
 高校生の頃 * 小学校低学年の頃と同じ
27. あなたはどんな方法で歯科保健指導を受けましたか。(複数回答可)
 小学校低学年の頃 ①受けなかった
 ②個人指導・グループ指導を受けた
 ③学級指導・学年指導を受けた
 ④全校指導を受けた
 ⑤忘れた・覚えていない
 小学校高学年の頃 * 小学校低学年の頃と同じ
 中学生の頃 * 小学校低学年の頃と同じ
 高校生の頃 * 小学校低学年の頃と同じ
28. あなたは誰から歯科保健指導を受けましたか。(複数回答可)
 小学校低学年の頃 ①受けなかった・忘れた・覚えていない
 ②養護教諭
 ③担任 (T, Tを含む)
 ④歯科医・歯科衛生士
 ⑤保健委員
 小学校高学年の頃 * 小学校低学年の頃と同じ
 中学生の頃 * 小学校低学年の頃と同じ
 高校生の頃 * 小学校低学年の頃と同じ
29. あなたは定期歯科検診の事前・事後指導を受けましたか。(複数回答可)
 小学校低学年の頃 ①事前指導も事後指導も受けなかった
 ②治療が必要な場合のみ治療勧告書もらった
 ③治療の必要がなくても検査結果報告書もらった
 ④事後に検査結果について個別に指導又は報告を受けた
 ⑤事前に検査内容・目的・方法について詳しく指導を受けた
 小学校高学年の頃 * 小学校低学年の頃と同じ
 中学生の頃 * 小学校低学年の頃と同じ
 高校生の頃 * 小学校低学年の頃と同じ

◆現在のご自分の体型◆

身長 cm
 体重 kg